

ひろしまの森づくり事業（交付金事業）推進の考え方（第3期：H29～H34）

市町名：三原市

1 要旨

三原市の森づくり事業（交付金事業）を実施するにあたって、「ひろしまの森づくり事業に関する推進方針」を踏まえ、市の里山林を取り巻く現状と課題を念頭に第3期の推進方針を定め、これに基づいて森林の持つ公益的機能を持続的に発揮できる取り組みを行うこととする。

2 里山林の現状と目指す姿

区分	現状	課題	目指す里山林の姿	取組む内容
景観保全林	佛通寺、棲真寺、久井の岩海周辺等、集客的要素のある場所で、アカマツ林等の森林荒廃が進み、手入れ不十分な森林が多数ある。	里山の、手入れが十分にされていないため、景観上集客的価値を損なう等問題がある。	佛通寺、棲真寺、久井の岩海周辺等にある、景観保全が必要な森林の整備をすすめ、地域住民や来客者に森林保全の意識が高まるよう、森林保全活動の促進をめざす。	景観保全整備を実施し、身近な森林の保全・再生に努め、地域住民へ広報等により意識啓発を行う。
防災・減災林（特認含む）	住宅地や主要道路周辺に、森林整備が行われず災害を引起す可能性のある森林が多数ある。	土砂災害特別警戒区域等周辺に手入れの必要な里山林が多く存在する。	災害の危険性がある荒廃している森林等を中心に整備を行い、安全と安心を提供できる里山林をめざす。	広報やHPを活用し周知を行い市民の要望をとりまとめたうえで、土砂災害の危険のある箇所について調査を行い、順次整備を行う。
地域資源活用林（特認含む）	佛通寺、棲真寺、久井の岩海等、地域の集客資源周辺の森林荒廃が進んでいる。	森林を活用する者が減少し、管理する労働力がなくなりつつあるため、地域資源のある周辺地域の里山も荒廃している。	地域資源を生かし、自然や文化の魅力を発信出来るよう、里山と地域資源が調和のとれた魅力ある里山林をめざす。	地元団体の支援を行いながら、森林整備をすすめ、地元団体が自立して継続的に整備活動が行われるよう支援をする。
環境緑化保全林	公共施設や公的空間において、屋上緑化や壁面緑化及び、敷地の緑化の推進に取り組んでいる。	環境緑化について実施に向け推進、周知が課題となっている。 一部での取り組みはあるものの、大きな動きには結びついていない。	環境緑化支援事業として公共施設、教育施設等に、屋上緑化や壁面緑化、敷地緑化を行い、一般市民が緑とふれあう機会を増進する。 また、環境教育の一助に資する場の提供をめざす。	自然を体験し地域資源活用、環境緑化・保全に努められるよう、広報やHPを活用し緑化保全推進の意識啓発を行う。 また、意欲のある団体、地域に対して支援する。
鳥獣被害防止林	植林された苗木等へのシカ被害は一部森林組合等から寄せられている。また、荒廃した山林がイノシシやシカをはじめとする農作物への鳥獣被害の誘引を招いている。	竹林や民家、農地周辺の茂みの拡大が、鳥獣による被害拡大の発生源となる等課題となっている。	シカやイノシシなどの野生動物が人里近くまで活動域を広げつつある。野生生物との棲み分けを目的に、一定の緩衝機能を持った里山林に整備し、野生動物との共生をめざす。	鳥獣被害が著しく、また持続した管理が見込まれる地域において、バッファゾーンとしての森林整備とその他の対策を一体的に取り組む。

※区分は市町が森づくり事業に取り組む方針により選択して記載すること。

3 森林を守り育てるための取り組み

区 分	現状と課題	目指す姿	取組む内容
森林を守り育てる体制	森林整備を行う者 (森林ボランティア団体) (住民団体等) (小規模林業経営者) ※主体別に記入 森林整備を助ける体制 (森林資源の継続的利用)	地球温暖化を始めとする環境問題に対する関心の高まりを受けて、森林の整備・保全活動に参加する市民が増加に伴い、森林づくりの活動を実施しているボランティア団体の数が増加しているが、企業による森林の整備・森林保全活動は減少している。 【森林ボランティア団体数(6団体)】 ・個人による林業経営はほとんど見られず、個人の森林についてはほとんど放置されている状況。	森林ボランティア団体や企業の活動を継続し、森林整備活動を通じ、荒れた山林を整備した公益的機能の確保や緑化教育を通じ地域の活性を創出する。 ひろしまの森づくり事業を活用し、自主的、継続的に森林整備事業を展開していく自立した林業経営者が増えていき、森林資源が循環していく。 ・里山保全活用支援事業や森林・林業体験活動支援事業を活用し充実した整備活動ができるよう支援を行う。また、将来自立できる団体が増えるよう支援を行う。 【森林ボランティア団体数 6団体】 ・新たな森の守り手について、市内在住者を対象に周知していく、支援にあたっては守り手にあった支援となるよう県と連携しながら進める。 【小規模林業経営者 (1団体)】
取組への理解促進	住民への説明 参加拡大による理解促進 事業の理解	・ひろしまの森づくり県民税による事業が、どのように展開され、どのような効果に資しているか周知できていない。 ・市民が森林整備などの体験と学習をする機会の情報発信力が乏しい。	・市民が森づくり県民税の用途や効果、実績を理解している。 ・市民が欲している、森林・林業に関するイベントや活動などの情報がタイムリーに入手できる。 ・県と連携し、市広報誌やHP、回覧等を活用し事業の実績や効果を市民に広く発信する。 ・自治会長会議や地区懇談会などに回覧等を通じて事業内容や実績を提供する。 ・事業実施箇所については、森づくり事業で整備した旨の看板等を設置する。 ・「ひろしま山の日県民の集い」を開催し、多くの市民の参加を得ながら、回覧や広報を使い森づくり事業の周知を図るとともに、森づくりに住民が参画をうながす。